

古澤 潔 夫* : シホガマギク属の解説 (四)

Isao HURUSAWA: Genus *Pedicularis* (4)

以上で、オニシホガマ亜属の解説を終り、シホガマギク亜属の各節に移る。

V. シホガマギク節 Sect. Rhyncholopha

本節は其の含む種類の数も最も多く分布域も歐亜、米、兩大陸に亘り、又、南米アンデス山脈中に産する唯一の *Pedicularis* 属植物 *P. incurva* を含む。現今の分布状態から推論して祖先と考へらるべき型の植物の傳播が行はれたのは第三紀末期頃とされてゐる。(更に舊く第三紀初期となす説もある。) 爾來其の母型から、新大陸及び、舊大陸で夫々獨立に分化が行はれたと考へられるが殊にアジア大陸に於ける新しい種の生成は旺で、チベット高原は其の中心をなした。ヨーロッパの現存種はアルプスの南斜面山麓低地で氷河期を切り抜けたものが後の氣候の溫暖化と共に、高地へ昇り二次的に分化を遂げたものと想像される。節内を三亜節に分つて、以下各群に就て見る。

1. キバナヒメシホガマ亜節 Subsect. Eurhyncholophae.

本節の基本型を含む群である。外部形態的に見て、Sect. Anodon series Capitatae 型から Sect. Lophiodon series Comosae 型への進化の線に沿つて更に發達し來つたものと見做される。Series Tristes (=Series Proboscideae pro parte) は、チベット高原を繞つて雲南省、四川省更に北へ、甘肅省、陝西省、湖北省に亘り、多數種知られ、又、コンロン山脈、アルタイ山脈から東部シベリヤにかけて分布する種類もある。これに反し Series Compactae は北米大陸に分布の重點があり、少數種が、ベーリング海峡を経て北極周極的に、シベリヤ東端から、バイカル地方を過り、ウラル山地帯、更にフィンランドに達してゐる。Series Compactae 中の *P. lapponica* (キバナヒメシホガマ) は、Maximowicz 氏によると樺太(北部)にあることになつてゐる。前記兩 Series は形態的には相互に非常に近いと思はれる。Compactae の祖先型が第三紀末期に廣い範圍の傳播をなしたのに對し、Tristes はチベット-アルタイ地域に留つた型から分派したとも想像し得る。

地方的に局限された型として雲南省、ビルマ北部に産する Suburrectae と新大陸産(北米の數種類と、前述、南米アンデス山脈産唯一の種類 *P. incurva* を含む)の Series Surrectae とが形態的に甚だ近似してゐるらしいが、これは興味ある關係といへる。Series Vagantes は本群中では比較的原始型の名残をとどめ外觀から前記ハガクシホガマ *P. Artselaeri* を想はせるものがある。

2. Subsect. Rostratae.

Rhyncholopha 節中では花筒が可也り長くなる種類を含む點で最も強く次節 Sect. Hypo-orthorrhynchae (ヨツバシホガマ節) 段階への接近が認められる。又、他方本節、就中 Series Rostratae (=series Caespitosae) を中間型として Sect. Rhyncholopha

が Sect. Siphonantha (キセルシホガマ節) へ移行して行く様子は, Sect. Hypoorthorrhynchae から Sect. Orthorrhynchae への関係と恰も併行するものである。Series Elongatae 及び Series Rostratae は地中海沿岸地方に分布する。前者が Sect. Anodon Series Foliosae の系統をひいてゐるのに對し, 後者は同節中の Series Hirsutae に由來する。Series Hirsutae 中のベーリングシホガマ *P. Langsdorffii* より發し Sect. Lophiodon series Sudeticae 中の *P. sudetica* を經て Series Rostratae 中の *P. rostrata* に至る形態的一聯の關係は容易に認め得るところである。(因に *P. Langsdorffii*, *P. sudetica* が共に極めて分布の廣い種類であることは注意すべき點である。) 更に *P. rostrata* 一群の花冠は, 嘴狀突起が長く眞直に前方へ突出すること, 花筒が比較的伸長する傾向のあることなどで, 構造上 Sect. Siphonantha の花冠に最も近づいてゐる。Series Asplenifoliae は Series 全體として見る時分布域の廣い群であり, 種類として區別されてはゐるが非常に近似の兩型が, ヒマラヤ東部 (*P. albiflora*) とヨーロッパ地中海沿岸地方 (*P. asplenifolia*) とに, 或はチベット—甘肅省 (*P. Potanini*) と, 北米, ラブラドル (*P. pedicellata*) とに夫々相當地域的に相離れて産することは相當に舊い分布を暗示するのではなからうか。Series Paucifoliatae は凡て東部ヒマラヤ, チベット高原東南斜面, 上部ビルマ, 雲南省西部の間に限られ局地的に發達した群であり形態的には Subsect. Rostratae と, 次のシホガマギク亜節, Subsect. Resupinatae, 殊に其の中の Series Racemosae (=Series Resupinatae sensu stricto) とを連ねる移行的段階とも見られる。

3. シホガマギク亜節 Subsect. Resupinatae.

此の群は, Lophiodon 中のサハシホガマ 亜節 Subsect. Palustres の系統をひく Rhyncholopha と云へる。本群植物の分布は, 各種類別に見ると地方的特産(endemic) のものが多數であるが, 群全體としては新, 舊兩大陸に跨り, 代表種 *P. resupinata* は最も分布の廣い種類の一つである。(ヨーロッパから, ウラル, シベリヤ, アルタイを經て蒙古, 滿洲, 朝鮮に及び, 他方, カムチャツカ, 千島列島を通過して日本列島に迄分布してゐる。多型的でもあり, 各地方型が多くの人により夫々獨立種として書かれた。) 著しく種類數の多いのは, チベット高原周邊の地で, 北米には 2~3 種知られてゐるに過ぎない。シホガマギク列 Series Racemosae Prain (=Series Resupinatae Maximowicz sensu strictissimo) に屬する種類を以て本亜節の基準型とする。Sect. Lophiodon subsect. Palustres の條下に既に指摘した如く, サハシホガマ *P. palustris* の galea の構造に, 此の群の花に於ける嘴狀突起體を暗示する原基が見られた。前者が今日最早 relic (遺存) の状態で, 地理的分布は廣いが然し, 特殊な環境條件の生育地にのみ見られるのに對し, 後者は廣い分布域と同時に, 生育地も, 高山, 平地を選ばず, 而も活潑な變化性を持ち, 其の polymorphism を誇示してゐる。從來エゾシホガマ *P. yezoensis* は日本に於て *P. resupinata* の(原型)から分化した極端なる+型と考へられた。後者か

ら區別される一般的特徴は *galea* の *rostrum* が顯著に細く且長くなること、花の色が黄白色なること、花序が上方へと狭まること、——開花は求心的、(*P. resupinata* では上擴がりとなる、——開花が遠心的)。葉が狭く切れ込みが浅いことなどの點であるが、變化の幅廣い *P. resupinata* 諸型中には白色花品が見られるし、又、*rostrum* の形は或る種の品種に於ては相當細長くもなる、花序や葉の形も、屢々、殊に兩者の分布が接觸してゐる地域では相當にずれた形が見られる。尙、山西省五臺山で採られた *P. resupinata* も花序の全形がかなり *P. yezoensis* に近い外觀を呈する。貴州省に *P. yezoensis* が産するとの報告があるが眞實とすれば興味ある事實である。假に *P. yezoensis* に近似の *P. resupinata* の一型であつたとしても面白い。山西省、泰嶺山脈産の *P. Galeobdolon* Diels も *P. yezoensis* に近い種類として報ぜられたが、此れもかなり詳細な記相文から推して *P. resupinata* の一型と見てよく *P. resupinata*—*P. yezoensis* の關係に一つの示唆を與へる。北米産の *P. lanceolata* が *P. yezoensis* に似てゐることもまた面白い。以下に紹介する Limpricht 氏の説は全面的には肯定し兼ねるが、氏に依ると、*P. yezoensis* は南支方面經由、日本列島に侵入したものであるといふ。其の根據として、樺太には *P. yezoensis* が産しないが北海道、朝鮮に産するといふ事實、他の方面から、津輕海峽が先に生成し而る後に初めて朝鮮と日本列島との間の連絡が斷られたと考へられてゐること、又、Pliozän 前期に宗谷海峽が生じ、樺太を切り離して居た時期に、まだ朝鮮と日本列島との連絡は存した、そして南方に於て大陸から日本列島が分離したのは、やつと Diluvium 前期であることを揚げ、尙、貴州省に於ける *P. yezoensis* の出現は上記の推論を證明するものとなしてゐる。ところが、Limpricht 氏に依る朝鮮及び濟州島よりの *P. yezoensis* の報告は、筆者の判斷によると恐らくヒカゲシホガマ *P. umbrosa* Nakai を誤つたのではなからうかと想ふ。斷定的なこととは言へないが Limpricht 氏のいふところの *P. yezoensis* に就て考へるに、產地、及び *galea-rostrum* の形から推してヒカゲシホガマ以外には當るものがないやうである。満鮮産の標本中にも未だ眞の *P. yezoensis* を見ないし、貴州省の *P. yezoensis* も諸種の事情から疑はしい。日本列島に於ける *P. yezoensis* の分化は可なり明瞭且舊いものと思はれる。

Series Carnosae はチベット東南部から、アッサム、シツキム、ネパール、ヒマラヤ、印度南部を経てセイロン島まで分布してゐる。一分派は雲南省、ビルマ北部にも産する。分布域は前者 Series Racemosae に比して南下しており、比較的新しく分化した系統と考へられる。Series Microphyllae, Series Furfuraceae は共に、キセルシホガマ節 Sect. Siphonanthia に最も近い群である。Prain 氏は Sect. Rhyncholophia 中に Hyposiphonanthae なる亜群を設けて、Series Racemosae, Series Carnosae, Series Curvipes, Series Microphyllae, Series Furfuraceae と共に、Series Oxycarpae(四川シホガマ列)及び Series Oliganthae を編入してゐる。上記諸 Series 中、最後の兩 Series に就ては、後に、四川シホガマ節 Sect. Tibeticae の項に於て述べる。Limpricht 氏は Series Micro-

phyllae, 殊に *P. tenuisecta* を Subsect. Resupinatae と Sect. Siphonantha 中の Series Polyphyllatae (此の Series を筆者は, Sect. Tibeticae 中に含めて考へたい。)との中間型と見做し, Series Furfuraceae を, Subsect. Rostratae から Sect. Siphonantha への進化の中途にあるものと見てゐる。

VI. 四川シホガマ節 Sect. Tibeticae.

従来, Sect. Siphonantha に入れられたり, 或は Sect. Rhyncholopha 中で Hypo=siphonanthae なる亜節の取扱ひを受けてゐたものの中で次の如き特徴を有する植物群を茲に纏めて獨立の節とする。花筒は Sect. Siphonantha や Sect. Orthorrhynchae の如く伸長しないが galea の rostrum は Sect. Rhyncholopha に較べて著しく細長くなり, 屢々環狀乃至 S 字狀となる。葉序, 及び花序に關してはセリバシホガマ節 Sect. Axillares と似てゐるが, Sect. Tibeticae の對生葉は屢々不規則で互生に或は極めて稀に輪生になる傾向をもつた種類を含むでる。Sect. Rhyncholopha 中の Series Tristes から系統をひいてゐることは, 上記の花冠形態のみならず, 植物體全形の類似からも推察出来る。本節を兩つの亜節 Subsect. Tibeticae 及び Subsect. Brevitubae に分ける。四川シホガマ *P. torta* (山蔦一海氏採集, 四川省, 峨眉山産の標本を検す。) 及びチベットシホガマ *P. tibetica* を含む Series Oxycarpae を以て本節の基準とする。他に Series Oliganthae 及び Series Polyphyllatae が Subsect. Tibeticae に屬する。後者は Prain 氏が, Sect. Rhyncholopha 中の Series Microphyllae に混入してゐたものの一部を含むでおり, Bonati 氏が他の數種と共に Sect. Siphonantha の下に取纏めた小群である。Subsect. Brevitubae 群は名の示す如く花筒が著しく短いこと, 及び生育型に於てかなり前亜節から異つてゐる。本節の類縁關係は各種類の所屬, 取り扱はれ方の變遷を辿つても略々推量出来るであらうが, 茲には詳論を避け, 後記セリバシホガマ節 Sect. Axillares の項で, もう一度顧ることとする。

○クモギリサウの語源に就て (津山 尚)

蘭科のクモギリサウ(一名クモチリサウ)の語源に就て牧野先生は日本植物圖鑑に次の様に書いてゐられる。「和名は雲切草並に雲散草の意乎或は山上に在るより謂ふ乎, 而して予未だ之が解を得ず。」と書いてゐられる。所が小生所藏の平井宗源氏の寫本「花卉小録」(文化4年の完成)によると雲霧蘭, 雲霧草の名が擧げてあり, これも亦適切な名である様に思はれる。上記の寫本の他の部分の出來上りから見て平井氏は相當確りした本草學者であつたと思はれるから, 解釋の當否は別としても, その時代にかゝる解釋があつたことは確である。いつか上の寫本を牧野先生にお目にかけた時, 先生も亦かゝる可能性を考へてゐられた様に拜見した。